



The Japan Geriatrics Society

第21回

日本老年医学会 中国地方会

同時開催教育企画・市民公開講座

かがやく長寿

日時 ● 2009年 **11月14日** 土

会場 ● **広島国際会議場**
〒730-0811 広島市中区中島町5番1号

会長 ● **松本 昌泰**
広島大学大学院 医歯薬学総合研究科
脳神経内科学教授



第21回日本老年医学会中国地方会／同時開催教育企画・市民公開講座

開催にあたって



第21回日本老年医学会中国地方会

会 長 松本 昌泰

広島大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経内科学

第21回日本老年医学会中国地方会は、平成21年11月14日に広島国際会議場で開催させていただきます。広島大学大学院脳神経内科学が事務局となり、医局員一同で準備を進めております。

学会のテーマを『かがやく長寿』といたしました。高齢社会であるわが国では、社会で貢献してきた高齢者を敬い尊び、ますますかがやく生活を過ごしてもらえるように医学医療の進歩を社会に還元し貢献することが大切です。

本会は例年11月に開催され、毎回、中国地区の各大学や地域の病院・医院に勤務される学会員470名のうち120名以上が参加されます。また、高齢者医療の実地医家の参加があり、高齢者特異的な疾患の診断・治療・リハビリテーション・老年医学領域の全般にわたる臨床症例報告や新しい診断・治療法などについての臨床研究に対して診療科目の垣根を超えた活発な発表・討論を行う場として発展してきております。同時に開催する教育企画により、実地医家に「明日からの診療に役に立つ老年医学治療・泌尿器科領域と婦人科領域」の話題提供を行うと共に、高齢社会の医療システムの事例として「地域包括医療とケア」と「放射線障害と発がんの防御」と題し、広島でのユニークな取り組みについてご講演を賜ることとなりました。また、市民に対する最新の治療の啓発活動として市民公開講座「ものわすれ」を、日本老年医学会の後援により行います。日々の診療に多忙な参加者の期待に応え、短時間で多くのことを学べる有意義な学会にし、一般市民にも啓発活動を行いたいと考えております。

さて、学会は世界遺産である「原爆ドーム」を望む平和記念公園内の会場で行われます。もうひとつの世界遺産「宮島・厳島神社」は、紅葉が美しい時期です。勉強と休暇を兼ねて多くの方々にご参加いただけると幸いです。皆様のご来広を心からお待ちしております。

平成21年10月

ご 案 内

参加者の方へ

- 受付は朝8時半より「ラン」の前、総合受付で行います。参加費は1,000円です(抄録集代金を含みます)。
- 名札・参加証(領収書兼用)に所属・氏名を記入し、胸に付けてください。名札のない方の入場はご遠慮ください。
- 会場内での呼び出しを行いません。緊急の場合に限り、総合受付にお申し出ください。

演者の方へ

- 今回は口演7分、質疑3分でお願い致します。時間厳守にご協力をお願い致します。
- 制限時間の1分前と修了時をベルでお知らせします。
- 開場は午前8時30分です。参加登録は混雑が予想されますので、参加費を支払いの上、参加証を受け取り、直ちに会場にお入り下さい。

講師、座長の先生方へ

総合受付をお済ませになった後、担当セッション開始10分前に、会場内次座長席に御着席ください。

日本老年医学会中国支部若手奨励賞について

日本老年医学会中国支部では若手奨励賞を創設しております。基準を満たした方は、選考の対象となりますので、ふるって演題をご登録ください。

対象者は日本老年医学会中国地方会一般演題の筆頭者のうち、40才以下の本学会会員です。あらかじめ、代議員による予備審査により候補演題を選び、当日審査委員の先生方に発表・質疑応答を評価していただきます。地方会終了前に会場で表彰式を行い、受賞者を発表します。会長より受賞者には賞状と記念品を授与します。候補者の皆さまは必ず閉会式にお集まりください。

プログラム委員

生田尚美、磯部 威、伊藤 聖、浦上克哉、岡田和悟、加世田ゆみ子、勝岡宏之、川井元晴、神田 隆、木下芳一、古和久典、清水英治、高田耕基、田妻 進、谷本光音、冨田奈留也、中島健二、野垣 宏、平松 信、細見直永、松本昌泰、三森康世、森松光紀、山口修平 (五十音順)
一般演題は28題応募がありました。プログラム委員の先生方に、若手奨励賞候補として対象演題15題から地方会規則に基づき採点していただき、上位6題を選抜しました。

その他のサービス

教育企画中に、会場内で参加者に対して軽食とお飲み物をセルフサービスではありますが用意させていただきます。会場前で書籍展示も準備しております。

発表者の皆様へ

1. 発表は、パソコンを用いたプロジェクターで行います。発表者は全員、ご口演の30分前までに、地下2階ランの間「パソコン・データ受付」に、パソコンまたはデータファイルをお持ちいただき、発表登録を行って下さい。
2. 念のためにバックアップデータをお持ち下さい。
3. プレゼンテーションスライドの枚数には制限はありませんが、口演時間(7分)は厳守して下さい。
4. また、最後の1枚は、「まとめ」、「総括」、または「結語」として下さい。
5. 演台にはオペレーター席のパソコンと接続されたキーボード・マウス、モニターがセットされておりますので、ご口演の際のスライド送り等はご自身で行って下さい。

データファイルを持参される方へ

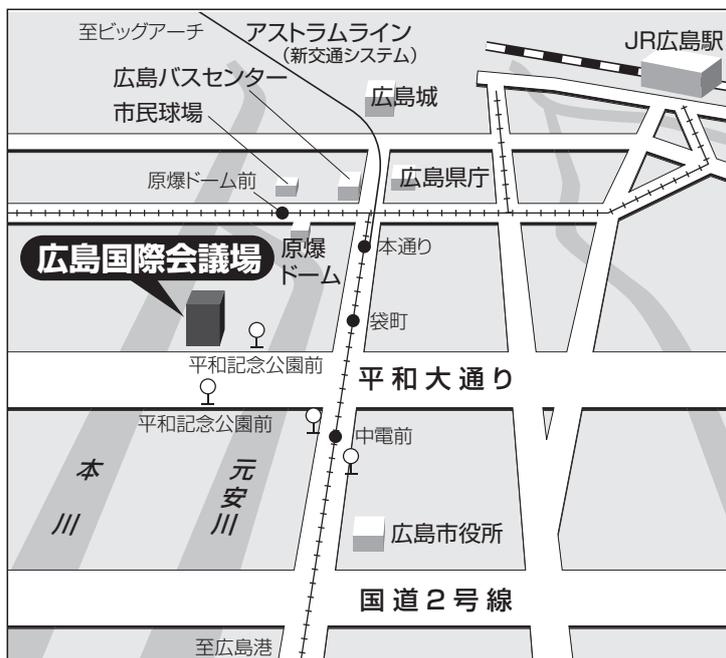
1. データファイルは「パソコン・データ受付」のパソコンにダウンロードして、動作確認を行った後、LANで発表会場へ配信します。
2. ファイル名は、必ず「演題番号・演者名」として下さい。
3. 受付でのデータ修正等はできませんので、予めご了承下さい。
4. データの作成は「アプリケーションは Windows PowerPoint2003～2007、フォントは OS 標準のもののみ、CD-R の書き込みは ISO9660 方式(一般的なもの)、動画を用いる場合は標準 MediaPlayer で再生可能なもの」でお願いします。
5. 上記条件で、動作が確実でない場合は、ご自身のパソコンをお持ち下さい。
6. Macintosh または WindowsVista で作成されたデータファイルでも Windows の上記条件での動作に問題がない場合は、データファイルをお持ちいただけます。ただし、Macintosh パソコンおよび、Windows Vista パソコンは用意しておりませんので、事前のご確認をお願いします。
7. WindowsPowerPoint2003～2007で作成されたデータファイルも念のため他の Windows パソコン (WindowsVista 以外)でも動作に問題がないことを事前にご確認下さい。
8. データファイルの記憶媒体は USB メモリ、CD-R、に対応できます。
9. その他媒体を利用される場合は10月27日(火)までに事務局へご連絡下さい。

ご自身のパソコンを持ち込まれる方へ、上記以外にお願いとして

- ア) 電源ケーブルは、必ずご持参下さい。接続ケーブルは、D-sub15ピン(ミニ)を用意しておりますが、接続に必要な付属ケーブルがある場合にはご持参下さい。
- イ) スクリーンセーバー、省電力設定、パスワード等は必ず解除して下さい。
- ウ) PC・データ受付にて確認後、パソコンを口演の30分前までに会場のオペレーター席までお持ち下さい。発表終了後、会場のオペレーターより返却します。
- エ) 時間短縮のため、可能でしたら Windows データファイルのご持参をお願いします。
- オ) 発表会当日にご自身のパソコンを持ち込まれる場合は、必ず事務局(電話：082-257-5201、Fax：082-505-0490、e-mail：aaatoshi@hiroshima-u.ac.jp)へ10月27日までにご連絡下さい。

会場への交通案内

会場 **広島国際会議場** 〒730-0811 広島市中区中島町 1-5 (平和記念公園内)
TEL.082-242-7777 FAX.082-242-8010



■ JR 広島駅から

路線バス 所要時間：約 20 分
●南口バスのりば A-3 ホームより、広島バス 24 号線吉島営業所または吉島病院行「平和記念公園前」下車すぐ。

市内電車 所要時間：約 20 分
●宇品①行「袋町」下車、徒歩約 5 分
●己斐②、江波⑥、宮島行「原爆ドーム前」下車、徒歩約 5 分。

タクシー 所要時間：約 15 分

■ 広島空港から

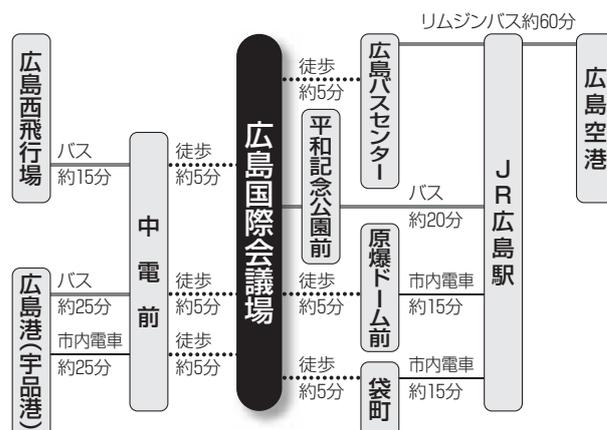
リムジンバス 所要時間：約 65 分
●空港ターミナルビル 1 階到着フロア 2 番ホームより、広島バスセンター行終点下車、徒歩約 5 分。

タクシー 所要時間：約 50 分

■ 広島西飛行場から

路線バス 所要時間：約 20 分
●広島電鉄バス 3 号線広島駅行「中電前」下車、徒歩約 5 分。

タクシー 所要時間：約 10 分



■ 広島港(宇品港)から

路線バス 所要時間：約 30 分
●広島バス 21 号線広島駅、大洲、向洋大原行「中電前」下車、徒歩約 5 分

市内電車 所要時間：約 30 分
●広島駅①、己斐③行「中電前」下車、徒歩約 5 分。

タクシー 所要時間：約 20 分

■ 広島バスセンターから

徒歩 約 5 分

プログラム

8:55 あいさつ 会長：松本 昌泰（広島大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経内科学）

9:00～10:00 一般演題 [老年・神経Ⅰ]

座長：根来 清（山口大学）
原田 俊英（広島国際大学）

01 高齢者感染性心内膜炎における生命および機能予後

○大槻 俊輔、細見 直永、河野 智之、竹田 育子、青木 志郎、川瀬佳代子、
末田 芳雅、近藤 啓太、山脇 健盛、松本 昌泰
広島大学病院 脳神経内科

02 当院における高齢者多発性硬化症の初発、再発例の検討

○竹田 育子、越智 一秀、杉本 太路、中村 毅、大槻 俊輔、山脇 健盛、
松本 昌泰
広島大学病院 脳神経内科

03 進行性核上性麻痺（PSP）の脳 SPECT 所見の検討

○大下 智彦、上野 弘貴、宮地 隆史、大槻 俊輔、山脇 健盛、松本 昌泰
広島大学 脳神経内科

04 バラシクロビル脳症と考えられた88歳女性例

○田崎 彩子、古賀 道明、川井 元晴、根来 清、神田 隆
山口大学大学院医学系研究科 神経内科

05 パーキンソニズムが先行した筋萎縮性側索硬化症の1例

○和泉 唯信、川畑 佳子、寺澤 由佳、宮崎 由道、浅沼光太郎、梶 龍兒
徳島大学 神経内科

06 過疎地におけるクリニック併設高齢者専用賃貸住宅の試み

○和泉 唯信、織田 雅也、日地 正典、伊藤 聖、前田 敦稔、花本 好正
医療法人微風会

10:00～11:00 一般演題 [循環器・消化器・糖尿病]

座長：梅本 誠治（山口大学）
徳毛 宏則（JA 広島総合病院）

07 スタチン投与中の冠動脈疾患既往患者の動脈硬化進展に対するEPAの上乗せ効果

○梅本 誠治¹⁾、高木 昭²⁾、小野 薫³⁾、領家 勉⁴⁾、関 耕三郎⁵⁾、
板垣 達則⁶⁾、藤井 章久⁵⁾、原田 雅彦⁷⁾、田中 正和⁸⁾、松崎 益徳⁹⁾

- 1) 山口大学医学部附属病院 臨床試験支援センター、
- 2) 社会保険徳山中央病院 循環器内科、3) 周南市立新南陽市民病院 循環器内科、
- 4) 社会保険下関厚生病院 循環器内科、5) 山口労災病院 循環器内科、
- 6) 光市立大和総合病院 内科、7) 宇部興産中央病院 循環器内科、
- 8) 山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院 循環器内科、
- 9) 山口大学大学院医学系研究科 器官病態内科学

08 閉経後女性における動脈硬化と心理学的特性、認知機能との関連

○青井 聡美¹⁾、石崎 文子¹⁾、池田ひろみ¹⁾、近村 千穂¹⁾、原田 俊英²⁾、
田村 典子¹⁾、飯田 忠行³⁾、塩川 満久¹⁾、小山 矩¹⁾

1) 県立広島大学 保健福祉学部、2) 広島国際大学 医療福祉学部、3) 藤田保健衛生大学 医学部

09 心合併症のある高齢患者に対しての腹膜透析導入の取り組み

○山田 敬子、川岡孝一郎、横山 敬生、頼岡 徳在

広島大学病院腎臓内科

10 ESDにて根治しえたハイリスク高齢者早期胃癌の1例

○濱田 康彦¹⁾、田中 信治¹⁾、岡 志郎¹⁾、松本 亜希²⁾、東山 真²⁾、
佐野村洋次²⁾、大庭さやか²⁾、金尾 浩幸²⁾、吉田 成人²⁾、茶山 一彰²⁾

1) 広島大学 内視鏡診療科、2) 広島大学 消化器代謝内科

11 後期高齢者に発症した1型糖尿病の1例

○辻 英之

マツダ株式会社 マツダ病院 糖尿病内科

12 高齢2型糖尿病患者における経口血糖降下薬と基礎インスリン併用療法の有用性

○山根 公則、杉廣 貴史、小田 賀明、粟屋 智一、中西 修平、河野 修興

広島大学大学院医歯薬学総合研究科 分子内科学

11:00～12:00 一般演題 [若手奨励賞]

座長：光延 文裕(岡山大学)
松浦 秀夫(済生会呉病院)

発表評価者：和泉 唯信(医療法人微風会)、梅本 誠司(山口大学)、浦上 克哉(鳥取大学)、
岡田 和悟(大田市立病院)、黒川 勝己(川崎医科大学)、吉栖 正生(広島大学)、
松本 昌泰(広島大学)

13 高齢者における肝細胞癌の臨床的特徴

○光井富貴子、相方 浩、高木慎太郎、柘植 雅貴、平松 憲、脇 浩司、
今村 道雄、川上 由育、高橋 祥一、茶山 一彰

広島大学大学院 分子病態制御内科学

14 高齢者サルコイドーシスの臨床像

○市川 裕久¹⁾、片岡 幹男²⁾、小林孝一郎³⁾、宮原 信明³⁾、谷本 安³⁾、
金廣 有彦³⁾、森 由弘¹⁾、中田 安成⁴⁾、谷本 光音³⁾

1) KKR 高松病院 呼吸器内科、2) 岡山大学 保健学研究科、

3) 岡山大学 血液腫瘍呼吸器アレルギー内科、4) 公立学校共済組合中国中央病院

15 悪性腫瘍を合併した脳梗塞症例の検討

○河野 智之、大槻 俊輔、越智 一秀、中村 毅、大下 智彦、山脇 健盛、
松本 昌泰

広島大学大学院 脳神経内科学

16 当科における80歳以上の非小細胞肺癌治療の現状

○出口奈穂子、藤高 一慶、大下慎一郎、金原 正志、石川 暢久、長尾早江子、
春田 吉則、村井 博、服部 登、河野 修興
広島大学 呼吸器内科

17 90歳以上の超高齢者の脳梗塞に対しt-PA 静注療法を行った3例

○大貫 英一¹⁾、仲 博満¹⁾、池上 聡美¹⁾、今村 栄次¹⁾、野村 栄一¹⁾、
若林 伸一²⁾
1) 翠清会梶川病院 脳神経内科、2) 翠清会梶川病院 脳神経外科

18 パーキンソン病におけるアパシーの検討

○濱田智津子、黒田 陽子、小野田慶一、山口 修平
島根大学 医学部 内科学第三

12:00 教育企画あいさつ 会長：松本 昌泰(広島大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経内科学)

12:00～12:55 教育企画1～2 座長：吉栖 正生(広島大学)

1 高齢者の排尿障害について ～おしっこで困ることのない健全で質の高い生活を

梶原 充
広島大学大学院医歯薬学総合研究科 腎泌尿器科 助教

2 高齢者・超高齢女性のトータルヘルスケアと婦人科悪性腫瘍診療

平田 英司
広島大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御医科学講座 産科婦人科 助教

13:00～13:55 教育企画3～4 座長：岡田 和悟(大田市立病院)

3 高齢社会における地域包括医療・ケア ～介護予防と地域リハビリテーションを含めて～

山口 昇
尾道市公立みつぎ総合病院 病院事業管理者

4 放射線障害の概要と発がんの防御機構

神谷 研二
広島大学原爆放射線医科学研究所 所長

13:15～13:45 代議員会 地下1F 会議室

19 血管性認知症と特発性正常圧水頭症の合併が考えられた1例

○織田 雅也、日地 正典、伊藤 聖、和泉 唯信
医療法人微風会ビハーラ花の里病院 神経内科

20 中高年女性における認知症スクリーニング検査と血液脂質・糖代謝の比較検討

○池田ひろみ¹⁾、石崎 文子¹⁾、青井 聡美¹⁾、近村 千穂¹⁾、田村 典子¹⁾、
原田 俊英²⁾、飯田 忠行³⁾、小山 矩¹⁾
1) 県立広島大学、2) 広島国際大学、3) 藤田保健衛生大学

21 認知症患者および介護者に対する外来での相談活動

○伊藤 聖、織田 雅也、日地 正典、和泉 唯信
三次神経内科クリニック

22 高齢者の貧血有病率

○宇野 久光¹⁾、小熊 信夫²⁾、松本 能里³⁾
1) 日本赤十字広島看護大学 専門基礎、2) 広島パークヒル病院 内科、
3) 広島赤十字・原爆病院 健診部

23 後期高齢者市中肺炎の予後規定因子に関する臨床的検討

○高田 真吾¹⁾、芹田 耕三¹⁾、菊池 宏¹⁾、渡邊 益宜²⁾、光延 文裕¹⁾、
木浦 勝行³⁾、谷本 光音³⁾
1) 岡山大学病院三朝医療センター 内科、
2) 岡山大学病院三朝医療センター リハビリテーション科、
3) 岡山大学 血液・腫瘍・呼吸器内科学

24 70歳以上の高齢非小細胞肺癌患者に対する治療の安全性と有効性の検討

○津端由佳里、岩本 信一、濱口 俊一、多田 光宏、掘益 靖、大江 美紀、
神田 響、須谷 顕尚、峠岡 康幸、磯部 威
島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科

25 中高年女性における介護経験の心理的・身体的影響の検討

○田村 典子¹⁾、石崎 文子¹⁾、池田ひろみ¹⁾、青井 聡美¹⁾、近村 千穂²⁾、
原田 俊英³⁾、飯田 忠行⁴⁾、小山 矩¹⁾
1) 県立広島大学、2) 広島大学大学院、3) 広島国際大学、4) 藤田保健衛生大学

26 糖尿病性舞蹈病の一例

○加世田ゆみ子¹⁾、池田 順子¹⁾、平本 恵子²⁾、早田 美和¹⁾、難波 孝礼²⁾、
村上 恒二²⁾、吉村 理²⁾、野村 栄一³⁾
1) 広島市総合リハビリテーションセンター 神経内科、2) 同 リハビリテーション科、
3) 翠清会 梶川病院 神経内科

27 Parkinson 病患者における血中 homocysteine 濃度と認知機能

○石原 愛子¹⁾、宮地 隆史²⁾、中村 毅¹⁾、木村 康浩³⁾、木平 健治⁴⁾、
大槻 俊輔¹⁾、山脇 健盛¹⁾、松本 昌泰¹⁾

1) 広島大学病院 脳神経内科、2) 広島大学地域医療教育センター、
3) 広島大学 病態薬物治療学、4) 広島大学 薬剤部

28 重度の閉口障害を合併した進行期パーキンソン病の1例

○勝岡 宏之¹⁾、原田 俊英²⁾、三森 康世³⁾、十河 正典⁴⁾、松本 昌泰⁵⁾

1) 医療法人真慈会真愛病院 神経内科、2) 広島国際大学 医療福祉学部 医療経営学科、
3) 広島国際大学保健医療学部 理学療法学科、4) 県立広島大学保健福祉学部 理学療法学科、
5) 広島大学大学院 脳神経内科学

15:50 若手奨励賞表彰および閉会のあいさつ

会長：松本 昌泰（広島大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経内科学）

16:00～17:00 市民公開講座 「いつまでも青春」

座長：松本 昌泰（広島大学）

1 ものわすれの初期症状、検査と診断

山口 修平

島根大学医学部 内科学講座第三 教授

2 ものわすれにどう対処するか — 認知症の治療、生活指導も含めて —

三森 康世

広島国際大学保健医療学部 理学療法学科 教授

教育企画

- 1 梶原 充 広島大学大学院医歯薬学総合研究科 腎泌尿器科 助教
- 2 平田 英司 広島大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御医科学講座 産科婦人科 助教
- 3 山口 昇 尾道市公立みつぎ総合病院 病院事業管理者
- 4 神谷 研二 広島大学原爆放射線医科学研究所 所長

市民公開講座

「いつまでも青春」

- 1 山口 修平 島根大学医学部 内科学講座第三 教授
- 2 三森 康世 広島国際大学保健医療学部 理学療法学科 教授

高齢者の排尿障害について -おしっこで困ることのない健全で質の高い生活を

かじわら みつる
梶原 充 広島大学大学院医歯薬学総合研究科 腎泌尿器科 助教



おしっこの回数が多い、夜間にトイレに何回もいく、トイレに間に合わないで漏れる、おしっこの勢いが悪いなどを「排尿障害」といいます。排尿障害でお困りではありませんか。排尿障害は、年齢と共に罹患率が上昇する疾患です。癌などの悪性疾患ではありませんが、おしっこのために外出を控えたり、落ち込んだり、夜間頻尿のために睡眠不足になったりと、生活の質を大きく低下させます。また、生命予後に直接影響を与える疾患ではないと考えられていましたが、近年の研究では尿失禁を認める方は、認めない方よりも生命予後が悪いことも明らかになっています。

講演では、高齢者の排尿障害について分かりやすく解説をする予定です。本講演が、おしっこで困ることのない健全で質の高い生活をお送りいただくうえで、参考になれば幸いです。

講師プロフィール

広島大学医学部医学科平成6年卒業。

広島大学医学部附属病院、JR 広島鉄道病院、JA 広島総合病院、広島大学医学部附属病院、中津第一病院、JA 尾道総合病院部長をへて、平成21年より広島大学大学院腎泌尿器科学現職。

日本泌尿器科学専門医、同指導医、日本小児泌尿器科学会認定医、所属学会は日本泌尿器科学会、日本排尿機能学会、International Continence Society 等。医学博士。第9回排尿機能学会学術賞受賞。

高齢者・超高齢女性のトータルヘルスケアと 婦人科悪性腫瘍診療

ひらた えいじ
平田 英司 広島大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御医科学講座
産科婦人科 助教



近年の高齢者・超高齢者の人口比率の増加に伴い、悪性腫瘍の診療機会も飛躍的に増加している。従来の高齢者がん治療の消極的・保存的な対応、ともすれば単に高齢であるだけで標準的な治療を施行しない、といった対応は現代社会ではもはや許容できるものではない。婦人科悪性腫瘍に関してもこれは同様で、高齢・超高齢女性のトータルヘルスケアに配慮した婦人科悪性腫瘍診療をオーダーメイドに立案する必要がある。

本講演で多岐にわたる文献・報告をもとに高齢者・超高齢女性のトータルヘルスケアと婦人科悪性腫瘍診療を議論する。

講師プロフィール

平成6年長崎大学医学部医学科卒業、広島大学医学部産科婦人科学教室入局。JA尾道総合病院、呉共済病院、公立みつぎ総合病院、四国がんセンターに勤務、平成19年より広島大学大学院医歯薬学総合研究科産科婦人科学助教に任命、現在に至る。

専門：婦人科腫瘍学、骨盤臨床解剖学。大学病院では現在、婦人科悪性腫瘍化学療法機構(JGOG)の実施する臨床試験・治験の実務担当者を務めている。

一般演題

01 高齢者感染性心内膜炎における生命および機能予後

○大槻 俊輔、細見 直永、河野 智之、
竹田 育子、青木 志郎、川瀬佳代子、
末田 芳雅、近藤 啓太、山脇 健盛、
松本 昌泰

広島大学病院 脳神経内科

【目的】 高齢者において感染性心内膜炎に出血性脳卒中が合併、脳卒中が再発すると予後が不良になるのではないかと仮説を立てた。

【対象と方法】 平成17年10月から21年9月までの期間で感染性心内膜炎治療中に脳卒中を発症した連続26症例(男15女11、18-82歳、中央値54歳)を対象とした。病型分類、脳卒中再発と脳卒中発症3ヶ月後のModified Rankin Scale値2-6の機能予後不良との関係を調べた。

【結果】 若年者(18-41中央値29歳)8例中梗塞7出血3再発1を示し、全例予後良好であった。中年群11例中(47-63中央値55歳)梗塞10出血4再発4を呈し、予後不良2例であった。高齢者7例中(65-82中央値71歳)梗塞6出血3再発4をきたし、予後不良または死亡が4例に至った。高齢者群は若中年群と比較し、病型分類に有意な差を認めなかったが、再発が多い傾向があり、有意に予後が不良であった(Odds比11.3, 95% C.I. 1.39-91.6)。

【結論】 高齢者の脳卒中を合併した感染性心内膜炎は、若・中年者と比較して3ヶ月後の予後が不良となった。

Keyword : 感染性心内膜炎、脳卒中

02 当院における高齢者多発性硬化症の初発、再発例の検討

○竹田 育子、越智 一秀、杉本 太路、
中村 毅、大槻 俊輔、山脇 健盛、
松本 昌泰

広島大学病院 脳神経内科

多発性硬化症は中枢神経系の脱髄性疾患であり、主に若年成人に発症するとされている。初発年齢は通常20-40歳であり、50歳以上は1.3%-9.4%、60歳以上では0.6-0.75%と非常に少ない。しかし高齢者の多発性硬化症は脳梗塞や腫瘍などの鑑別が難しく、若年成人と比べて診断に時間を要する場合があります、重要と考える。今回われわれは1998年12月～2009年8月で多発性硬化症初発または再発例で当院にて入院加療をおこなった60歳以上の9例を抽出し検討した。多発性硬化症の診断はMcDonaldの診断基準を用いて行った。9例中8例が女性であり、初発年齢は50歳以上が7例、最高齢は74歳であった。視神経炎・脊髄炎を呈した場合が多く、抗アクアポリン4抗体は5例で測定しており、そのうち4例で陽性であり高い頻度であった。高齢者多発性硬化症について臨床上、検査上の特徴について文献的考察を加えて報告する。

Keyword : 多発性硬化症、Neuromyelitis Optica、
抗アクアポリン4抗体

03 進行性核上性麻痺 (PSP) の 脳 SPECT 所見の検討

○大下 智彦、上野 弘貴、宮地 隆史、
大槻 俊輔、山脇 健盛、松本 昌泰
広島大学 脳神経内科

【目的】 症候性パーキンソニズムを来す進行性核上性麻痺 (PSP) は脳血流シンチにおける前頭葉の血流低下所見は診断上有用とされる。同所見の有用性を発症から撮像までの期間に着目し、検討した。

【対象】 SPECT 撮像後2年以上経過観察し臨床的に診断した60歳以上の PSP 患者15例 (年齢61歳-81歳、男性10例)

【方法】 123I-IMP SPECT を撮像し、3D-SSP を用いて解析した。頭部 MRI 矢状断にて中脳被蓋の萎縮を視覚的に3段階、grade 0 (萎縮なし)、1 (中脳被蓋の平坦化)、2 (軽度萎縮以上) の3段階にて評価した。患者を発症3年未満と3年以上の二群に分け、脳血流 SPECT と頭部 MRI の所見を検討した。

【結果】

- 1) 発症3年未満群 (10例) : 前頭葉内側面を含む集積低下を示した例は8例であり、中脳被蓋萎縮は2例でのみ grade 2 であった。
- 2) 発症3年以上の群 (5例) : 全例において前頭葉穹隆面全体の集積低下と中脳被蓋萎縮を呈した。

【考察】 発症3年未満では脳血流 SPECT の前頭葉血流低下所見は中脳被蓋所見より有用である可能性がある。

Keyword : 進行性核上性麻痺

04 バラシクロビル脳症と 考えられた88歳女性例

○田崎 彩子、古賀 道明、川井 元晴、
根来 清、神田 隆
山口大学大学院医学系研究科 神経内科

【主訴】 意識障害

【現病歴】 2008年2月左乳頭付近～左背部に皮疹が出現し、帯状疱疹と診断され、バラシクロビル 3000mg/日 を投与された。3日後発語不明瞭となり、尿失禁・不穏が出現し当院へ搬送された。

【入院時現症】 身長146cm、体重46kg、体温36.4℃。左 Th5～6 領域に皮疹が帯状に分布。JCS3R、構音障害あり、項部硬直なし。その他明らかな神経学的異常なし。

【検査所見】 WBC 4170/ μ l、CRP 1.58mg/dl、BUN 48mg/dl、Cre 2.63mg/dl、血中バラシクロビル濃度62.16 μ g/ml。髄液細胞数206/ μ l、蛋白23mg/dl、糖47mg/dl (血糖106mg/dl)、髄液中 VZV-DNA 陽性。頭部 MRI 明らかな異常なし。

【経過と考察】 VZV による髄膜脳炎が鑑別にあがったが、神経学的所見に乏しかった。バラシクロビル内服を中止し、少量のアシクロビル投与に切り替えた後、意識障害が急速に改善し、腎機能もほぼ正常化したことから、バラシクロビルによる腎障害、脳症をきたしたものと考えた。

Keyword : 脳症、バラシクロビル、帯状疱疹

05 パーキンソニズムが先行した筋萎縮性側索硬化症の1例

○和泉 唯信、川畑 佳子、寺澤 由佳、
宮崎 由道、浅沼光太郎、梶 龍兒
徳島大学 神経内科

【患者】69歳、女性、元事務職。

【主訴】しゃべりにくい。

【現病歴】63歳頃からやる気がなくなり物忘れが出てきた。脳神経外科でドネペジルを処方された。64歳頃から字が小さくなり右手指振戦が出現し他院でカベルゴリン、アママンタジンも追加された。最近しゃべりにくさ、物が掴みにくいという症状も出てきたため当科に紹介受診した。

【家族歴】両親に血族結婚なし。家系内にパーキンソン病、認知症、ALSはいない。

【現症】体重45kg(-5, 6kg/年)、発語は小声で顔貌はやや無表情、脳神経系では、嚥下障害あり、舌に線維束収縮あり、握力6/10kg、MMTは頸部と上下肢で5、四肢に下肢優位、右優位に固縮を認める、右手に振戦あり、下顎反射陽性、深部反射四肢で亢進、バビンスキー徴候陰性、歩行は緩徐で腕の振りは低下。

【検査所見】脳MRIでは前頭側頭葉軽度萎縮を認めた。MIBG心筋シンチでは集積低下を認めた。

【経過】パーキンソン病として薬物調整をしていたが嚥下障害が進行するため筋電図を行い上下肢の急性脱髄所見を認めALSと診断した。

【まとめ】パーキンソニズムとALSの合併例と考え文献的考察を加え報告する。

Keyword : ALS/PDC

06 過疎地におけるクリニック併設高齢者専用賃貸住宅の試み

○和泉 唯信、織田 雅也、日地 正典、
伊藤 聖、前田 敦稔、花本 好正
医療法人微風会

【はじめに】広島県県北地区は人口約10万人。われわれの居住する三次市は約6万人の人口である。高齢化と過疎化が確実に進みつつある地域である。医療法人微風会は市街地から離れた場所に病院(外来、療養病棟)、介護老人保健施設を運営してきた。

【これまでの状況】所属する医師の専門から神経疾患を中心に診療してきた。三次市においても特別養護老人ホーム待機者は多い。また高齢者と介護を期待される家族が同居していない場合が少なくない。このような状況をふまえ2009年4月から神経内科・老年病科を中心としたクリニック、ショートステイ19床、高齢者専用賃貸住宅(高専賃)41室による複合施設をオープンした。

【その後】外来患者は約30%増加した。継続患者と合わせた約1,000例の検討では約1/4を認知症が占めた。高専賃からの受診は身体機能低下を伴う老年症候群が多い。ショートステイは4ヶ月目から常時90%以上の稼働率になった。高専賃は5カ月経過した段階で約75%の居住(予約を含む)に達した。

【まとめ】過疎地においてもクリニック併設高専賃は需要がある。併設するクリニックに神経内科とともに老年病科を設置したのは有用であった。

Keyword : 高齢者専用賃貸住宅

07 スタチン投与中の冠動脈疾患 既往患者の動脈硬化進展に 対する EPA の上乘せ効果

○梅本 誠治¹⁾、高木 昭²⁾、小野 薫³⁾、
領家 勉⁴⁾、関 耕三郎⁵⁾、板垣 達則⁶⁾、
藤井 章久⁵⁾、原田 雅彦⁷⁾、田中 正和⁸⁾、
松崎 益徳⁹⁾

- 1) 山口大学医学部附属病院 臨床試験支援センター
- 2) 社会保険徳山中央病院 循環器内科
- 3) 周南市立新南陽市民病院 循環器内科
- 4) 社会保険下関厚生病院 循環器内科
- 5) 山口労災病院 循環器内科
- 6) 光市立大和総合病院 内科
- 7) 宇部興産中央病院 循環器内科
- 8) 山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院 循環器内科
- 9) 山口大学大学院医学系研究科 器官病態内科学

【背景】 スタチン投与中の冠動脈疾患既往患者 (CHD) への EPA 追加投与は心血管イベントを有意に低下させたが、EPA の心血管イベント抑制機序の詳細は不明である。また脈波伝搬速度 (baPWV) は動脈硬化の独立した予後予測因子である。

【目的】 スタチン治療中の CHD を対象に大動脈硬化進展に対する EPA の上乘せ効果について1年間のランダム化比較試験を行った。

【結果】 スタチン単独投与群 (25名) と EPA 追加投与群 (25名) の患者背景に差はなかった。EPA を追加投与することで EPA/AA はスタチン単独投与群に比べて高値となり ($p < 0.0001$)、尿中 8-isoprostane は低下した。baPWV は EPA 追加投与1年後スタチン単独群に比べて進展が抑制され ($p = 0.039$)、頸動脈エコーで測定した stiffness parameter β 値も EPA 追加投与によりスタチン単独群と比べて低下した ($p = 0.046$)。baPWV は EPA/AA 高値、尿中 8-isoprostane 低値で最も低下していた。

【結論】 スタチン投与中の CHD における EPA 追加投与は酸化ストレスを低下させ動脈硬化の進展を抑制することが示唆された。

Keyword : 動脈硬化、冠動脈疾患、EPA

08 閉経後女性における 動脈硬化と心理学的特性、 認知機能との関連

○青井 聡美¹⁾、石崎 文子¹⁾、池田ひろみ¹⁾、
近村 千穂¹⁾、原田 俊英²⁾、田村 典子¹⁾、
飯田 忠行³⁾、塩川 満久¹⁾、小山 矩¹⁾

- 1) 県立広島大学 保健福祉学部
- 2) 広島国際大学 医療福祉学部
- 3) 藤田保健衛生大学 医学部

【目的】 現代社会では、生活環境や人間関係などによりストレスを多く抱え、生活習慣病とストレスとの関係も指摘されている。また、生活習慣病の危険因子である高脂血症、高血圧、肥満などは脳・心臓における血管障害と関係がある。そこで、動脈硬化指標である脈波伝播速度 (baPWV) を用いて、健全な閉経後女性における動脈硬化と心理学的特性、認知機能との関連について検討した。

【方法】 三原市内の研究への協力が得られた健康な中高年女性 55 名 (平均年齢 61.5 ± 7.1 歳) を対象とした。動脈硬化の測定は日本コーリン製血圧脈波検査装置 form を用いて baPWV で判定した。認知機能検査は、改訂長谷川式簡易知的機能評価スケール (HDS-R)、タッチパネル式コンピューターを用いた Alzheimer's Disease Assessment Scale (TDAS) を用いた。また、STAI を用いた心理学的調査を行った。

【結果】 baPWV は HDS-R、ADAS (時間・点数) と有意な関連がみられた。また、STAI 特性とも有意な関連が認められた。

【結論】 動脈硬化と認知機能の低下、心理的要因との関連が示唆された。

Keyword : baPWV、閉経後女性、健診

第21回日本老年医学会中国地方会の開催にあたりましては、下記の皆様からご協賛をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

医療法人せいざん 青山病院	旭化成ファーマ株式会社
医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院	アストラゼネカ株式会社
社会医療法人祥和会 脳神経センター 大田記念病院	エーザイ株式会社
医療法人社団明和会 大野浦病院	大塚製薬株式会社
医療法人社団光仁会 梶川病院	グラクソ・スミスクライン株式会社
国家公務員共済組合連合会 呉共済病院	サノフィ・アベンティス株式会社
医療法人社団中川会 呉中通病院	塩野義製薬株式会社
公立みつぎ総合病院	第一三共株式会社
医療法人社団玄同会 小島病院	大日本住友製薬株式会社
医療法人真慈会 真愛病院	武田薬品工業株式会社
医療法人翠清会 翠清会梶川病院	田辺三菱製薬株式会社
医療法人のぞみ 瀬野白川病院	株式会社ツムラ
社会医療法人社団陽正会 寺岡記念病院	日本イーライリリー株式会社
医療法人清幸会 土肥病院	日本製薬株式会社
医療法人微風会 ビハーラ花の里病院	バイエル薬品株式会社
医療法人信愛会 日比野病院	万有製薬株式会社
広島医療生活協同組合 広島共立病院	ファイザー株式会社
三原市医師会病院	富士フイルム RI ファーマ株式会社
医療法人社団知仁会 メープルヒル病院	持田製薬株式会社
医療法人社団明清会 山田脳神経外科	
医療法人社団薫風会 横山病院	
医療法人ユア・メディック よりしま内科外科医院	

(五十音順)

第21回日本老年医学会中国地方会

会 長：松本 昌泰
広島大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経内科学

事務局：広島大学病院脳神経内科
〒734-8551 広島市南区霞1-2-3
TEL:082-257-5201 FAX:082-505-0490

制 作： 株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL:096-382-7793 FAX:096-386-2025



第21回日本老年医学会中国地方会事務局

広島大学病院脳神経内科

〒734-8551 広島市南区霞1-2-3

TEL:082-257-5201 FAX:082-505-0490